

やなせがわ

1995. 6.30

No. 20

柳町広 瀬内報 川会部

一九九五年度 総代会終わる

去る四月二十二日、本年度の定期総会は城町内会々館をお借りして開催されました。本年度総会での特筆記事は長年の懸案、町内会の旗を作ることを決めたことでした。町内の会員の方から図案を募集することも決まりました。また、大排水の暗渠化について、意見が出され、特別な取り組みをすることになりました。

新役員は次の通りです。

会長 奥村 隆重
 副会長 野島 七三
 田村 友一

会計	内藤 忠臣
会計監査	菊地ケイ子
文化部長	木村 尚央
〃 副部長	竹前 栄二
〃 副部長	長岡 忠重
防犯部長	白石 孝光
〃 副部長	池端 行雄
保健衛生部長	黒木 成壕
〃 副部長	尾崎 喜之助
〃 副部長	岡部 政治
広報部長	奥村 隆重
〃 副部長	磯部 年伸
〃 副部長	中山 和夫
子ども会々々長	伊藤 和子

母子保健推進委員	奥村 エイ子
各班	各班長・副班長の皆さん
一班	白石 孝光
二班	中山 和夫
三班	長岡 忠重
四班	上条 守弘
五班	池端 行雄
六班	内藤 忠臣
七班	竹前 栄二
八班	黒木 成壕
	尾崎 喜之助
	岡部 政治
	東野 秋男
	磯部 年伸
	佐々木 正四郎
	木村 尚央

なお、五班に岡さん、六班に湯本さんが転入して、新しい会員になりました。

広報部で今回は何を主なテーマにし、しようかと話し合い、一月に阪神・淡路大地震があつたこと、それに今年には戦後五十年になるので、そのようなことも載せましようということになりました。四班の多田初枝さんは、東京の深川で関東大震災と、東京大空襲にあつたと聞いていましたので、広報部（磯部、中山、奥村）でお話しを聞きました。

震災・戦争ごめんです

「広」 多田さん、早速ですが、関東大震災と東京大空襲はどんなでしたか、そのお話しからお願いします。

「多」 今度の阪神のようにあんなにがらがら家が崩れなかつたわね。今回は直下型、つていうのかな。関東大震災のとき、うちは2階家で、いくらかはかしたいだけれど、つぶれなかつたの。水道の鉄管が破裂して水が出て、2階の

て来たのよ。つぶれたうちつていうのは私見てないわね。

「広」 ペチャンコになつた家はなつかたんですね、関東大震災は。

「多」 マグニチュード7ぐらいと聞いていたけれど、その時は子どもだつたから、よくわからないけど、小田原の方が震源地らしいね。小田原城の石垣が崩れたと言つていた。

「広」 東京がひどくずれたので、私なども東京が中心の震源地のように思つていましたけれど。

「多」 あんなひどいというのは、結局あの時は火事だわね。火事で十万人ぐらい亡くなつたんでしようね。私のクラスメイトで、大きな家に住んでいた人がいたの。女中さんや番頭さんがいて、大きな食料品のお店だつたけれど全滅しちゃつたの。逃げてる途中で煙にまかれてしまつたらしい。東京では焼けて亡くなつた方が多いので、直接の地震で亡くなつた方はあまりい

「広」 火事で亡くなつた人





が多かつたんですね。

「多」 深川では江戸時分から、お寺がすぐく沢山あつたんですよ。お寺の境内が広いの。そこへ、うちのダンスを出したの。ダンスはあつたわよ。中身はみんなだれか持つていつちやつたけど。広いところは、まあ残るのね。うちには焼けちやつたけど、本所の被服廠の跡へ逃げた人はほとんど死んじやつたのね。広いところでもみんな荷物を持つて逃げたでしょう。荷物に火が移つちやうの。私と母親と妹は今もある清澄庭園ね、その時分は岩崎公園といつて岩崎さんの別荘があつたの。江戸時代は紀ノ国屋文左衛門の

屋敷の跡だつたの。池があるのね。川から直接つながつて、川から、みんな水を飲みたいて、朝鮮人が毒を入れたからつて、魚が浮き上がつていてね。私はその時子どもで、わかんなくなつたけれど、あとで考えたらね、あれはみんなまわりが大きな火事だつたから、水があつたまつて、魚が腹をみせて浮きあがつたんでしようね。ああいう時はデマがひどいね。

「広」 みんな見通せないから、そういうデマものつちやうんでしようね。

「多」 逃げる人の荷物を清澄庭園の入口でみんな捨てさせたのね。人間だけとほんの手荷物だけだつたから、木も多く火の粉もよけられたから、沢山助かつたんでしようね。被服廠跡は、そうとう広いけどただの野つばらだつたから、

みんな荷物を持つて入つたら、荷物に火の粉が飛んで来て、火がついて、燃えて、亡くなつた方が多かつた。お寺の境内へ仏壇を持つてきたのを見ていたら、仏壇の中の掛け軸がわしつととんで、どこへいつたかわからなくなつた。もうすごい風が吹くの。火事になると。

「広」 火のいきおいとまわりの熱気と空気が膨張しておきる風のいきおいは、私たちには想像がつかないですね。

「多」 戦争の方がこわい。頭の上から焼夷弾がとんできて。今度の空襲もそうね。ちようど2才何カ月かの息子をおぶつていて、ころんだわけ





よ。そしたら風で地面から起きらんないの。風に押しつけられて。熱風みたいのです。

「広」その火の中をどういふうに、うまく逃げのびたのでしようね。あれは夜でしたね。

「多」空襲警報がならないうちに、もう爆弾が落ちたね。警戒警報なつたけど、空襲警報がならないうちに「どかん」ときたわけ。電気は黒い布で覆っていた、電気はつけられないから、雨戸を開けちやつたら、爆弾が落ちていて、明るくなつちやつていた。一反風呂敷で荷物を3回くらい避

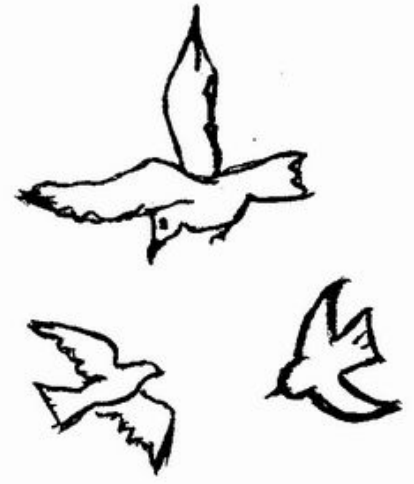
難場所のアパートへ運んだけど、そのアパートも火が入つたの。前の隣組の人は末広という味噌屋が避難場所に決めていけば、味噌はあるからいいよ」と誘われたけど、関東大震災の時、そのそばを通つて、お味噌のにおいと死んだ人のおいがなんとなく子どもでも頭に入っていたのね。そこへいく気はさらさらなかつたわけよ。その味噌屋の方はね、電気シャツターでシャツターを降ろしたから停電で出られなくなつて、みんな亡くなつたのよ。その当時明治座の方が鉄筋だから安全かと思つて避難した人も、シャツターの中に閉じこめられてみんな死んじゃつたのよ。人形町あたりは焼けなかつたから家は残つたのに人は亡くなつていた。

「広」避難場所がどういふところが安全というのか、経

験してわかるということもありますね。

「多」逃げていく途中、火が背中であつて、火の粉がおぶつていっている子があつた。いとつていたので私の着ているものを子どもにかぶせ、自分は風呂敷を水にどぶんとつけて、かけた。学校まで行こうと思つても、風で行かれない。風上がいいと言ふけど風上に行かれない。なにしろ苦しくて息がつけられないのよ。風でアパートのドアもすつとんじやつたの。当時はかぞえで4才以上はそれより小さい子のいる人に預けて、親はみんな消火活動のために残つていふように言われたけど、私はそれはできないと、断つた





の。その反対に考えてもらいなさい。自分の小さい子がいて、その上、小さい子を預かって、何も、何かあつたら責任がもてないから。どこの親でもそうだと思う。私は絶対に連れて逃げちゃうからと言つていたの。

空襲のときの火と、震災の時は、火がちがうのね。震災の時は、台所の八つ頭がぼつくり焼けていて食べたのね。空襲のときは米びつの米が全部焼けこげてなくなつちやつたのね。かんづめはペチャンコになつて食べるものはなにもなかつた。

「多」 次の日も熱くて、家の焼け跡も入つていけなかつた。人も電信柱のように（昔、電柱は焼目がついた木でした）焼けて死んでいた。

「広」 避難する時、どんな物を持っていましたか。何が一番必要でしょうか。

「多」 その頃は、空襲もあつたので、いつも用意して、着替えや、位牌、練りミルク、食糧、水（水筒に）、薬などをいつも持ち出せるようにしていた。一番必要なものは水でした。小さい子どもがのどが乾いたと言つても、がまんなんていうことは、わからなから、子どもにあげる水だけは、大人にあげず持つていた。非常用にも大事で、最低でも1人1本ずつ水は必要でしょうね。

逃げる場所は木のあるところでしょうね。火の粉がとんでくるのをよけられるから。

「広」 生木があれば火事もかなりよけられますね。

「多」 戦争中、子どもの昼寝用かやを買つたため、西川ふとん店（日本橋）前に行列して、行っていたら、皇后陛下が通るから、行列をしてはダメと行列を取りやめさせられた。世田谷から来た婦人が「食品の買いだめはなし、必要な品物を買うための行列なのに、やめられない。」と言つたところにお巡りさん通りかかり、その婦人を連れていつてしまつた。今の天皇、皇后は人と話す時、膝をついて話すこともあるけれど、昔は考えられないこと。・・・戦前・戦中は、言いたいことも言えない





不自由さがあつたんですね。
着る物、はく物、食べ物、
お菓子も配給で並んで行列を
つくり、衣料キップもあり、
キップと交換で買いました。
子どもは並んでいけば物とも
らえると思ひ、気がついたら、
自分の子が行列に並んでたこ
ともあつた。

「広」 震災も戦争もあつて
は困ることですんね。震災は
避けられないけど、戦争は人
がやることで、みんなが戦争
にならないようにしていかな
ければなりませんね。今日は
どうも有り難うございました。

「磯・中」 戦後50年に思
う・・・ということが多田さ

ん(79才)に聞いた。7才
の時に、マグニチュード7
の関東大震災を体験した、す
べてが焼き尽くされてしまつ
たと言う。避難場所で「水」
を求める人たちが池に群がる
と「毒を入れられた」などと
いうデマが流れたらしい。そ
して、29才で東京大空襲。
やはり、すべてが燃えた。当
時2才の息子を背負い、わず
かな荷物を抱え、実家の千葉
へ疎開した。

子どもが水を欲しがり水筒
の水を大切に飲ませたと、そ
どちらにも共通すること、そ
れはやはり「水」の大切さ。
阪神大震災でも被災者の人た
ちから「水」が欲しいと言う
声は多かつた。

戦後、食糧難、物不足・・・
衣料キップという物があり、
それを靴下や糸などと交換し、
お菓子、魚、果物なども配給
だつた。50年たつた今・・・
あのような出来事はもう二
度と繰り返さないで欲しい。

願うことは全ての人たちが安
心して暮らせること。「平和」
の意味を改めて考えさせられ
るお話しであつた。

「奥」 今日のインタビュ、
私としては、町内会では、初
めて顔を合わせるものどうし
で、うまくいくか気がかりで、
正直いつてデリケート(?)
な私は、役の重さを少し感じ
ました。心配するには及びま
せんでした。人生の大先輩の
多田さんのお話と、子育て
真つ最中の磯部さん、きさく
で若さあふれる中山さんの取
り合わせで話しも戦前の子育
て、自分たちの育つてきたよ
うす、今の社会状況の問題な
ども、いろいろ交流できまし
た。



新会員の紹介です

五班 岡 治三郎

カ枝 (妻)

東京から、三月十九日に引越してまいりました。当地の空気の良いこと、日当たりも良く何より喜んでいきます。田園風景や川辺の桜並木、子ども頃の想い出します。老人でこれから何かとお世話になることと思いますが、今後とも何とぞよろしくお願い致します。

六班 湯本 博文

睦 (妻)

姫 (猫)

富士見市より、昨年八月に越してきました。以前より静かな町で、とても落ち着くところができ、休日など河原へ散歩に行ったりと、とても満足しております。今後とも、どうぞよろしくお願致します。

町内会旗のデザインにあたって



志木市柳瀬川町会

杉原 芳香

この「川」の字で町内を包む感じが離せません。ですから、感じを出そうとしました。また、川原の緑や家々の木々、草花をこれかも大切にしたい願いを込めて、旗の地色は深緑としました。単純なデザインかもしれませんが、シンブルイズベスト(◎)で皆さまに親しんでいただければと存じます。



浴衣について

高野 笑子

浴衣は、平安時代の貴族が入浴の際に用いた「湯帷子」
 「ユカマ」から起こったもので、
 のちには、湯から上がった時に着る白地晒し木綿の衣服をいうようになり、江戸時代以降、夏の普段着として欠かせないものとなり、申形とも呼ばれます。最近では、従来の浴衣に加えて目新しい感じのものも求められ、無地浴衣も出始めました。
 また、小物の種類も充実し、粋なトータルコーディネートが、より楽しんでいただけたくなります。夏に向かつて揃いの浴衣で涼を楽しんでみませんか。



トトロの森に
 はとぎす
 鳴いて
 たいまし
 絵き紙 奥村エイ子

* 一椀の心づくしや
 余花散れぬ

消火器の点検

防火防災部

* 水びたし介助なしでの
 入浴日
 なすもきゆうりも
 お化粧なおし

防火防災部

去る六月十七日、防火部（白石、池端）で町内の消火器の点検をしました。市で施設のもの全部5年以内できちんと整備されていましたが、町会のもものは大部分が5年以上のもので、使用期限切れになつていました。消防署にお願い、陳情に行つたところ、早速返事がありました。「全市的な配置で考えておりますので、何カ所と今ご返事はできませんが、善処したいと思えます。」という返事がありました。

市からの設置個数が決まりましたら、町会内の設置場所のバランスを考えて、場所を決めたいと思います。

